

千草子会

題字 原あやめ

■目次

- 原あやめ先生の夏のお休み……………1頁
- 「山脇敏子回顧展」……………2・3頁
- 同窓会に出席して……………4・5頁
- 卒業生だより／インテリアデザ……………6・7頁
イン科 同窓会展ご案内
- ジュウリーアート科10周年記念……………8頁
展（仮）ご案内
- 山脇ギャラリースケジュール……………9頁
千草会だより
- 在校生作品／学院だより／体験……………10・11頁
入学／学校見学／就職
- 山脇展のお知らせ／千草会欲談……………12頁
室ご案内／講師・職員移動報告



14

年号



五月のお誕生日に

千草会名誉会長
理事長 原あやめ先生

今夏は近年にない猛暑が続いておりますが如何がお過ごしでしょうか、きつと会員の皆様にも、それぞれ暑さ対策を工夫されて乗り切っていらつしやることと思いません。

原あやめ先生には、五月の山脇敏子先生の回顧展、三年振りの同窓会、と大変お忙しい日々でいらつしやいましたが、その後もお変わりなくお健やかに過ごしていらつしやいます。平素、理事長室での先生は毅然として机に向かわれ、執務にあたつていらつしやいます。お若い頃と少しも変わられません。今も、お部屋に伺います折には、緊張を覚えます。同窓会に出席されました皆様には、当日の先生がお元気に楽しく過ごされましたご様子をお聞きしたいと思います。

先生には新春早々、転倒され左足骨折、と

いうアクセシビリティがありました。その後、それまでの加療、ご静養に続けて、先生なりにご自身の体調に合わせてリハビリをされ、今では外出時には、杖を用いていらつしやいます。屋内では杖をお使いになることなく、ご用をこなしていらつしやいます。このことは何事に対しても常に前向きでいらつしやる先生の姿勢を教えて頂いたように思います。

この夏は特に遠出の機会はお持ちではないご様子で、家事に伴う雑事も適度な運動として小まめに体を動かされていらつしやるようです。この暑さ――、本来、先生のお好きなクラシック音楽で暑気払いが一番――と、思いますが、近年は難聴でいらつしやるため補聴器を通しての音楽鑑賞は、素晴らしい音色にふれられることができず、ましてや「音を楽しむ」ということは不可能とのこと、しかし、時に先生のご存知の曲を耳にされると、その演奏とは別に、ご自分の頭の中で独奏が始まり、一時楽しまれることもおありのようです。

最近、講談や落語で話芸を楽しまれたり、美しい大自然の風景、懐かしいヨーロッパの街並みに思いを馳せられ、思い出と重ね合わせ、いらつしやるご様子です。この夏のお休みも適度な運動とリラククスで、バランスのよい日々を過ごされて、健康管理にとめていらつしやいます。

平成十四年八月

村田節子記

千草会名誉会長 原あやめ

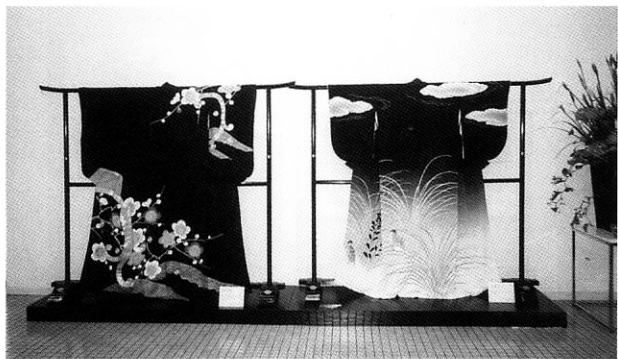
山脇敏子については、母としての記憶より一人のデザイナーの存在として私の中に生きていく人物です。

今回、こうして回顧展としてその作品の数々を御覧頂けることは、考えてもいなかった日本の変化の中に、日本というこの国の過去を思い起こさせるものとして、カンフル注射の役を果たしてくれば、等と思って居りますが――。

スポーティー、実用的、カジュアル等々の風俗が言葉とともに氾濫する中で、少し許りゴージャス、格式、と云った意味を考えさせる展示になったかと思つて居ります。

山脇敏子回顧展

平成14年5月8日～5月18日



「夜の梅」「うづら」 染めと日本刺繍



創立者
山脇敏子先生



屏風「ひばり」 アプリケとドロンワーク



会場風景

左奥 写真パネル
パリ・チエルヌスキー美術館に
寄贈した「日本民族人形」のパネル

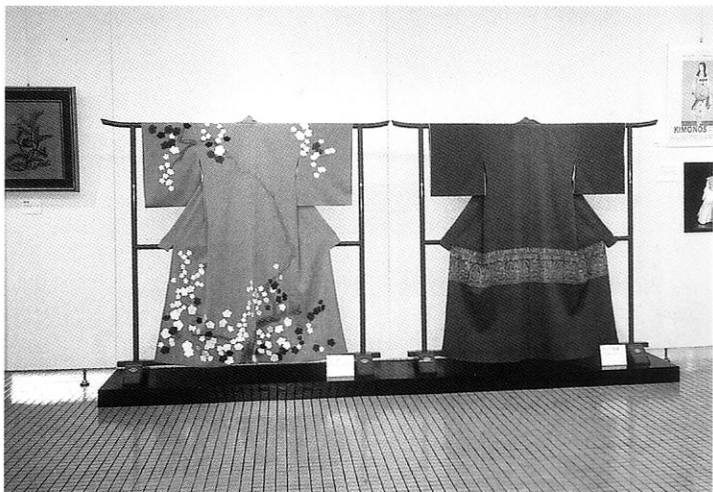


「泰山木」 毛糸刺繍

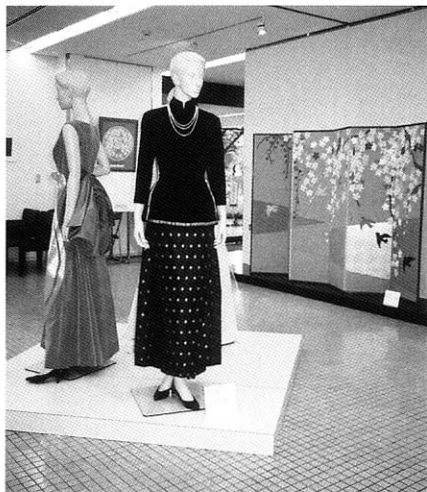
「みみずく」 カットワーク

専任 神山美奈子

去る5月8日から18日迄の間、当ギャラリーに於いて「山脇敏子回顧展」を開催いたしました。会期中には千草会の同窓会もあり、服飾時代を卒業した方々にとっては、大変懐かしく当時のことを思い出されたのではないかと思います。学生達もこの回顧展を通して学院の歴史を



「白い梅」 アプリケ 「チェコ模様」 糸刺繍



「大礼服」 御成婚にちなんで

垣間見ることができ、大変刺激を受けたようでした。表現方法は違っても、デザインを学ぶ学生達にとって「山脇敏子」のデザインは、古いどころか今でも尚新しく、斬新な印象を与えたようです。いくら新しいものでも時が経てば古くなっていく中で、恒久的に新しいものもあるのだという事を、作品が主張している様にすら感じられました。

私を含め、職員、講師の先生方の多くは、この様な形で作品を観るのは初めてで、私など、その存在感にただ圧倒されるばかりでした。日本の伝統美を感じつつも、現代でも充分に通用するデザインは、私だけでなく多くの来場者の方々に魅了したのではないのでしょうか。ギャラリー運営委員として、今回の展示の準備を通して、学院の歴史、とりわけ「山脇敏子」に関する知識が深まったことは、私の糧となりました。

「原あやめ写真展」に始まり、「折々のなぐさみ」(原あやめ先生個展「津田青楓回顧展」そして「山脇敏子回顧展」と、ギャラリー開設以来、四度の企画展を開催いたしました。ギャラリーとしての企画展は暫くお休みさせていただきましたが、今後も学生を初め、多くの作家の作品を幅広く紹介していきたいと思っております。卒業生のみなさん、こちらの方へ来られる機会がございましたら是非ギャラリーへお立ち寄り下さい。そして、現在の学生の活躍ぶりもご覧下さい。

(学内会員)

「山脇敏子回顧展」の写真パネルの展示については、12頁千草会歓談室をご覧ください。

「これから」

それぞれのお立場からのメッセージ

学院長 鈴木正治

よく、「この頃の若い人達は…」という言い方をしますが、これは誤りです。若い人達を批判するならば、先ず自身自身を批判すべきだと思います。若い人達に何か欠点があるのなら、それは大人の責任、教育者の責任です。半世紀以前に若者であった私より今の若い人達はよくできると思っています。

やれ漢字を知らない、語彙が乏しい、当たり前です。教えてないんですから。

われわれが絶対かなわないのは、IT関係の知識、特にインターネットであり、パソコンの強さです。英会話ができないというけど、それはわれわれができないので、その気になれば、駅前留学？（山脇学院の地下にもあります）すれば外国から先生が来ていますし、発音も良くなり、会話も上達します。

若い人達は読書をしない、と言いますが、われわれだって、勉強の本ばかり読んでいたわけではありません。単に知識を得る術が乏しかったに過ぎません。今は活字よりTVです。マンガとTVとインターネットで情報を得ています。TVは活用すれば非常に素晴らしい教育媒体であり情報伝達手段です。

コンピュータを使って、絵を描くなど、私のように50年前に教育が終わった人間には全くわからない分野です。50年前の教育が悪かったわけではありません。時代とともに出てくる新しい問題をどう解釈すればいいか学び取る力が必要なのです。つまり応用力を育てなくてはならないのです。

日本の教育はみんな平等に、平均値を上げる事を目標にしています。独創性があるのに突出した人が生まれにくいのは、その結果かもしれません。競争より協調、存続することが何より大切とされ、小学校の運動会ではみんな揃ってゴールへ、結果として努力はしません。忍耐力は弱く90%しか実力は出しません。サッカーで負けたのも当然でした。それと、愕然としているのは志の低さです。中央教育審議会で行ったアンケートによると、日本の子供の60%は「その日その日を楽しく暮らす」でした。続いて「人気があるのは、平凡だが、円満な家庭をつくる」です。私の年なら実に素晴らしいことに感じますが、これで良いと思いますか。心配なのは、「子供達に希望がない」ことです。

官僚は取捨する、政治家も、財界人も、悪い。教育者は聖職の意識は無く教育関連労働者に堕ちてしまいました。これではダメです。

われわれ自身がつっかりとした倫理観、理想を持つことが必要です。アメリカの大学では学生がその授業、先生の評価をします。素直に学ぶべきだと思います。まる暗記でなく、ものを考える力をつけ、創造性豊かな人をつくるためには、縦割りの教育でなく、教員はお互いに協力して教えていくべきです。つまり応用力のある質の高い美意識を持つ人を必要とします。平成21年には18歳人口はピーク時の半分になります。これからは大変です。

した、誇張ではありません。あの抑圧と恐怖の戦争から解放された反動の開放感と目標に向かう真剣な心構えでした。後には駿河台も手ぜまになって市ヶ谷にピロテイ様式の瀟洒な校舎が新築されて、生徒の数も増え千数百人となり、若々しく明るく華やき、秋の遠足にはバスが二十台以上も学院の前に連なって壮観そのものでした。

急速に進む住環境の進歩に対応できるように——と、原あやめ先生の構想に成る新しい科を服飾コースの他に設けられました。このリビングアート科では、生活技術、あるいは生活の知恵として美術、建築、文学、音楽鑑賞などを通じて学び、現代にふさわしい情緒豊かな教養ある女性の育成を目指した現代生活には意義もあり役に立つ学科でした。

「昨日 今日 明日」

元千草会委員

清水清子

駿河台の地に真、善、美、を理想とされて、山脇敏子先生と原あやめ先生のお二人で昭和十二年十一月、学院が創立されました。

私は、五十年も昔——昭和二十四年（1949）の秋に卒業致しました。従って創立間もない時の生徒です。——当時の日本は敗戦の屈辱と痛手を負う中にも黙々と復興への希望に励みました。その甲斐あって幾らかの余裕も出来て何とか以前の様な、ドレスが着たいと人々は物作りを始めました。当然のことで雨後の竹の子の如く競って洋裁学校が設立されて「××学校・学院」又は横文字風の名称が殆どの中に、服飾美術と掲げられたあたりではない、四文字に圧倒的な印象と魅力を感じて、不器用でも臆面なく服飾科に願書を出しました。翌年にはデザイナー・養成科が新設され、引き続き勉強をしました。私は縫う事は不得手でした——が各科とも様々な科目が斬新で面白く特に遠くパリの本格的なお話をお聞きした事は、吸い取り紙の様で今でもつきり記憶にあります。私の時代はパリの様子などは、出始めた雑誌で五〜六ページを見て楽しむ程度でした、生徒は意欲的に自分のドレスを作り、晴れやかに着る感激を実感して、傍らで観る者も共々悦びあいま

「若ければもう一度」



前田とみ子 (旧姓河村) 服飾高等科昭和34年卒 洋裁師範科昭和35年卒 服飾手芸科助手

椿山荘以来の同窓会出席でした。

市ヶ谷近辺、山脇など昔の面影はなく、まるで浦島太郎の様でした。見学させていただいたIA科の教室は設備が整い、若ければ再び、こんな教室でジュエリーなど扱ってみたいものです。又、山脇先生の作品展も懐かしく拝見しました。見覚えのある作品もいくつかありました。山脇から離れて40年になりますが、今も立派に通用する斬新な作品の数々、先生の偉大さに感服しています。恐らくこの先何十年経ってもこの感覚的な新しさは通用するのでしょう。

場所を変えて私学会館の同窓会会場では、お元気な原あやめ先生や、昔お世話になった先生方、お友達にお目にかかりました。かなりの年月が経っていましたが、お変わりなくお元気そうで、とても嬉しく感激でした。

テーブルにはお会いした事の無い方もいらっしゃいましたが、まるで旧知の方のように打ち解け、お料理をいただきながら昔話や近況などを話し、2時間はあっという間に過ぎ、またの機会を楽しみにお別れしました。先生方はじめ皆様お幸せそうでお別れし嬉しく思っています。お世話下さった委員の方々に感謝しつつ、又、山脇学院の更なる発展をお祈りします。



ビンゴゲームの賞品はなーに？

柳家三太楼さんの落語でお腹ごなし。ビンゴゲームは賞品も沢山!! 参加賞は可愛いティーメジャーでした。

佐藤京子先生のお話

「手にふれて」



デザイナー 養成科
昭和35年3月卒
洋裁科助手
津久井ひろみ
(旧姓石川博美)

イタリア広場のメトロに向かってせかせかと足を早める。するとどこからかほのかに甘く誘い込む香り。思わず空を見上げ、ああ、もうこんな季節か。わたしはもう何十年とこの香りに出合っている。並木の菩提樹が秘かに花を咲かせたのだ。枝葉が伸び、わたしの背骨までも伸ばしてくる。パリの六月は時の伸びる月。石の街を覆っていた埃の皮膜を一気に払いのけ、川も樹木も人も、いのちの手を伸ばし、空の無言の響きを伝え合う。

日本では今年、雪舟誕生五百年記念とか。時に沿って順応し、流動する山の気、水の気。それを筆と墨にゆだね、手の心で布や紙にみずみずしく走らせ、山水画を生ませた源には画家の絶え間ない自然との響応が在ったのだろう。数年まえ、原あやめ先生を久しぶりにお尋ねした時、応接間に掛けられていた津田青楓画伯の大作に漲る気の流動感を送らせていた筆の跡が私の記憶の中に鮮明に残っている。私達は一年中仕事に追われて手を動かしていることが多い。何かに急ぎ立てられ、時間のわ

だかまりに苛立ち、季節の微妙な境にも触れ得ず過ぎることがある。

ところが人には身体の何処かに古代の余韻をとどめて、胎児のヘソの緒は海藻の手の名残り。この手を借りて母の大地に深く根をおろすと云う。また、胎内の鼓動には遙かな潮騒の響きも宿されていて、まだ魚のような顔やえらのような手に、しぶきとなって降りかかった羊水の甘い塩の味とも和をなしているらしい。

プラタナスの街路樹の合間排気ガスのけむるグレーの石畳の街に新しい光が芽ばえ始める頃台所に立つてサラダにするアンディーブの旬のほろ苦さを刻んだり、彩かな土のついたルッコラの春菜を水道で洗い流す瞬間、いつしか手も身も洗われ、心の姿勢も整い空と大地の間にふくよかに漂っている思い、こんな空間にこそ、詩の精がさまざまな空気の流れに織りこまれて

いるのだ。私の山脇時代には敏子先生を遠くから拝見し和服のお姿なのにきびきびと動かれていた面影が印象に残っている。原あやめ先生の授業では、人台につけられていく魔法の手さばき、その素晴らしさに目を見張ったことを、今でも忘れない。また各専門の先生方に直接教えを受け洋裁、手芸、デッサンといった手段を通して手の心を育む基礎を学ばせていただいた。今もそのことはクレアシオンの根になっている。

山脇では僅かな間であったが助手もさせて頂き、結婚後渡仏、エコール・ド・ルーブルで主に西洋美術史を学んだことから、東洋美術への関心も高められる機会を得た。コレージュ・ド・

「ディスプレイデザインの役目」



リビングアート科
インテリアコース
平成12年卒
石田治子

山脇を卒業後、空間ディスプレイの会社で働くようになり、はや三年目となりました。在学中のカリキュラムの一つであったディスプレイ、その講師をなさっていた先生の職場でお手伝いをさせて頂く事になったのが、この仕事を始めたきっかけです。

そもそも私が山脇に入学した動機というのが将来ディスプレイの仕事をしてみたいというものでした。その時はまだ漠然としたイメージのみで、実際授業を受けて初めてディスプレイというものが幅広いものだとなりました。ディスプレイと一言で言っても商業施設、文化施設、イベント空間のディスプレイなど様々ですが、一つ言えることは、インテリアデザインが個人や一定の人(住宅であれば、そこに住む人)を対象にしたものであるのに対し、ディスプレイデザインはそこを訪れる全ての人に向けてられたものであるという事です。ある情報を、健全者にも障害者にも、子供にも、お年寄りにも平等に正しく伝える事がディスプレイデザインの役目です。かと言ってディスプレイがインテリアと全く違うものであるかと言えば決してそうでは

なく、学院で学んだ事、製図やコンピュータはもちろん、色彩、模型、ものの考え方や表現、伝達方法、あらゆる見学会に至るまで、今の仕事の中で非常に直接的に役立っていると感じています。

私は現在文化施設のデザイン業務に携わっていますが、まだまだ知らない事が山程あり、学ぶ事の多い毎日です。特に文化施設は規模の大きなものも多く、そこで扱う情報の量も多いので、一つの施設が完成されるまでに何年もかかる事もあります。その大きな流れの中で自分出来る事は本当にわずかですが、それが何かの形となり、そこを訪れる人々に興味や理解、感動を少しでも感じてもらえるという可能性は、私にとって大きな喜びであり、これからの励みにもなっています。

山脇ギャラリーのご案内

ギャラリーについてご興味がおありの方は、学院窓口へお申し越し下さい。リーフレットをお送りいたします。

館内は移動パネルです。利用される方の展示作品に合ったレイアウトでご使用になれます。また、半室のご利用も可能です。

お問い合わせ/お申し込み

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-21
phone:03-3264-4027 fax:03-3264-4025
E-mail:yamawaki@tk.xaxon.ne.jp

- ギャラリーの利用実費：5,000円/1日 (照明・冷暖房・備品等の使用料です)
- 宝飾用ガラスケース1個につき：200円/1日

インテリアデザイン科
同窓会展のご案内

リビングアート科 インテリアコース卒
インテリアデザイン科卒 合同展

インテリアデザイン科

主任 市村倭子

開催日

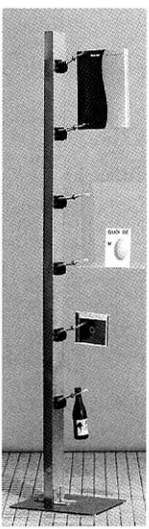
2002年 10月17日(木)~10月24日(木)

パーティー 10月18日(金) 5時~7時 (日・祝日は休館)

会費500円

山脇ギャラリーに於いて歴史ある山脇LA科の合同同窓会展の手始めとして、平成10年3月卒以後の卒業生の同窓作品展を催します。インテリアデザイン科卒業の方々は是非、参加して下さい。現在のお仕事を通しての写真、作品等を一堂に集めてギャラリーに展示し、先輩、後輩を交えて、楽しい一時を過ごして頂きたいと思っております。又、それ以前に卒業された諸先輩の皆様、パーティーの折りにでも、これからの会の進め方等、ご相談させて頂ければと思っておりますのでお出かけ下さいませ。

同窓会展は隔年毎とし、今回は2004年秋を予定しております。



ジュウリーアート科 10周年記念展のご案内

会期 平成15年6月末から7月初めを予定
山脇ギャラリーに於いて

早いものでジュウリーアート科も、10周年を迎えます。この間には、学院も共学になり、学科が増えたりと、変化のあった10年間でした。その中で、ジュウリーアート科の卒業生の業界での活躍は、めざましいものがありました。

例年の山脇展、卒業進級制作展、新入生歓迎会には、卒業生にも声をかけて頂いて、学年を越えた輪が広がっています。仲間達の活躍の様子を目にすると、喜びと同時に大変励まされます。その場で、お互いの情報が交換出来る点も素晴らしいと思います。

学院で学んだ事、生活、先生方に教わった事は社会に出た上で、大いに役立ち、日々感謝にたえません。10年経った今、ジュウリーアート科は先生方の蒔かれた種が発芽したころだと思えます。小さな芽は、雨の中、風の中、また、晴れの中をくぐり抜け、着々と力をつけ、業界を背負っていくグループに咲き、実っていくと思えます。今後とも変わらず暖かい目で見守って下さい。

ジュウリーアート科では、この10周年を記念して、来年の夏に、学院、在校生の協力を得て「10周年記念展(仮)」を企画しております。ジュウリーアート科卒業後の作品活動の様子をご覧頂きたいと思っておりますので、多くの会員の皆様、ご父兄の方々、お誘い合わせて、お出かけ頂けますようお願いしております。

記 多久和晶子 田野薫 鶴田文



陽ざしあふれる中庭で
ちょっとひと息リフレッシュ!



学院の廊下はギャラリーみたい



「ジュウリーアート科10年の歩み」

◎1993年 ジュウリーアート科 設立

◎受賞者 入選者

1996年 ●ユボデザイン賞 山田いずみ

●ヤングクラフト展 正井容子

1997年 ●J J D A展 学生部門 吉野薫

●ペリテコンペティション 小松崎操 近藤裕美子 鶴田文

1998年 ●ファッションクリエーター 鶴田文

●新人国内コンクール 鶴田文

●国際コンクール ジュエリーアクセサリー部門

パリ国際大会 グランプリ 鶴田文

1999年 ●伊丹国際クラフト展 (千草会報11月号に記載)

●第24回日本彫金会展 鶴田文

●新人賞 田野馨

●日本彫金会賞 鶴田文

●ファッションクリエーター 鶴田文

●新人国内コンクール 和田めぐみ

●多和田晶子 和気佐知子 田中めぐみ

2000年 ●J J D A展 学生部門 (千草会12月号に記載)

●浅沼幸子 相馬沙実

●ファッションクリエーター 滝口博昭

●新人国内コンクール 田野馨

2001年 ●第26回日本彫金会 努力賞 田野馨

2002年 ●J J D A展 一般部門・学生部門

●ジュウリーアート科卒業生の皆様には既に連絡済みですが、全員の卒業制作を集める方向で企画運営を進めています。ご協力を宜しくお願い致します。

山脇ギャラリー 展示スケジュール

学院・千草会関係

5月8日～5月18日「山脇敏子回顧展」 (学院)

6月24日～6月29日「SKY GRID」 (学院)

(絵本展)

田島紀子・渡部陽恵

7月20日～8月31日「学生作品展」 (学院)

ビジュアルデザイン科2年

10月5日～10月6日「山脇展」 (学院)

10月17日～10月24日「インテリアデザイン科 同窓会展」 (千草会)

インテリアデザイン科

卒業生合同

11月20日～11月29日「口開け」 (千草会)

スーパーCGアート科

卒業生グループ

12月16日～12月26日「アネハネハ楽園展」 (学院)

卒業生グループ

姉齒公也

平成15年

1月21日～1月31日「グループ展」 (千草会)

ビジュアルデザイン科

平成15年度

2月22日～2月23日「卒業・進級制作展」 (学院)

卒業生グループ

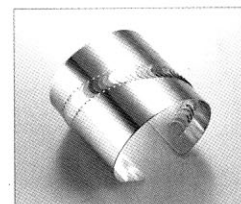
6月末～7月初め 「ジュウリーアート科 (千草会)

10周年記念展」

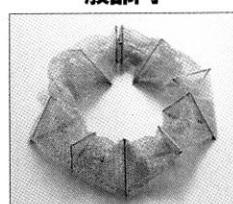
ジュウリーアート科卒業生

「2002年 J J D A展」

入選作品



正井容子 -Bangle-



和気佐知子 -Necklace-



杉山千尋 -Necklace-



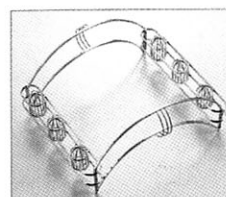
松田健 -Necklace-



巻口かおり -Ring-



相庭聡 -Ring-



原田要 -Necklace-

千草会だより

会長 村田節子

5月の「山脇敏子回顧展」に併せて行われ、大勢の会員の皆様のお集まりを頂き、おかげで名譽会長原あやめ先生はじめ諸先生方と一緒の楽しい一時となり、無事、盛会裏に終えることができました。殊に駿河台時代の卒業生の方々はギャラリーで、山脇敏子先生のお作品をご覧になられ、当時の先生のお講義や、バラのアーチのある中庭でお花を愛でていらつしやった先生のお姿を思い出され、その様が重なり合って脳裏を駆け巡り、じっと先生のお作品に見入っていらつしやる様子も見受けられました。また、これまで機会がなく今初めて見学された若い人々も一緒に、40年前の作品とは思えない新鮮さに驚かれていますように。

中には山脇服飾美術学院時代を懐かしく思うあまり、服飾コースの無くなったことを少々淋しく感じていらつしやる方もありますが、学ぶ分野が異なり、技術は違っても、美を意欲して感性を磨く場としての山脇は本質的には何等変わることはありません。どうぞ淋しさは、懐かしさとして大切に頂き、新しく育っており、ますます若い人達を温かく見守って頂き、応援をお願いいたします。

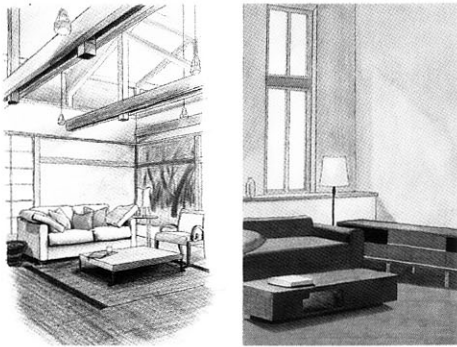
ご覧の通り、ジュウリーアート科が来年度10周年を迎え「記念展」を催す運びとなっております。又、山脇展の後「インテリアデザイン科同窓会展」が予定され、VD科、DD科の在校生もギャラリーの展示を試みております。山脇ギャラリーのスケジュールをご覧の上、お出かけ下さい。当時の先生はいらつしやなくても受付に声をかけて頂ければ廊下展示もご覧頂けます。

在校生の作品紹介



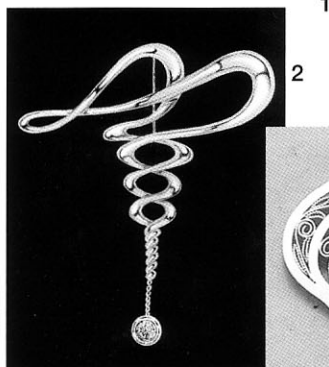
←ジュウリーアート科

1. ネックレス
(シルバー、七宝、塩ビチューブ、ステン線)
2. レンダリング
(デザイン画制作のための技術として製図法やアイデアスケッチの実習)
3. 唐草のブローチ
(K18、シルバー、赤銅)
4. リング
(シルバー)



インテリアデザイン科→

1. パース
(スケッチや図面からルールに従って雰囲気のある絵を描く)
2. 模型
(図面から立体を読み取り、空間を考えるトレーニング)
3. 椅子
(メルクパイン集成材、塗装)



平成14年度体験入学等のご案内

14年度体験入学などの日程が決定しましたので、ご案内致します。最近では入学者のほとんど全員が体験入学や学校説明会・見学等に参加しています。「百聞は一見に如かず」と云うことでしょいか。今年では体験入学の実施回数も増やしました。この機械に皆様のまわりにいらっしゃるデザイナー、クリエイターを目指している方へ、ぜひ参加・体験されますよう、お勧めください。参加希望、資料請求等は学務課までご連絡ください。

お問い合わせ・お申し込み先 TEL03-3264-4020

体験入学	学校説明会	学校見学
第1回 7/26(金)	6/22(土) 7/20(祝)	月曜日～土曜日
第2回 7/27(土)	8/18(日) 9/28(土)	(休校日を除く毎日)
第3回 8/10(土)	10/26(土) 11/23(祝)	※事前連絡不要
第4回 8/21(水)	12/14(土)	
第5回 8/24(土)	平成15年	
第6回 9/7(土)	1/25(土)	
第7回 11/30(土)	※要予約	
実施時間 13:00-16:30 (受付12:30)	実施時間(1日2回) 第1回10:30-12:00 第2回13:30-15:00	受付時間 月～金10:00-16:00 土 10:00-14:00

就職について
この六月サッカーW杯で日本全国が一色になり、各選手の死力を尽くした懸命な姿に大きな感銘を受けました。本学院の学生達も、若者らしく、前向きに自信を持って、就職活動に取り組んで欲しいと願っています。

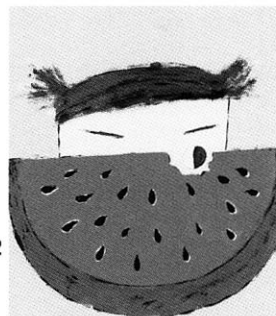
主な就職先
(株)ナカジマコーポレーション 増成織ネーム(株) (株)吉本倶楽部 アドコマーション(株) (株)自由設計 (株)小林建築事務所 (株)ケイ・ウノ (株)ムラオ (株)チャーミーたなか (株)エス テール (株)ノマド キザワジエイ・シー・エム(株) (有)ジオデシック 日本ロレックス(株)

学務課 就職担当

在校生の作品紹介

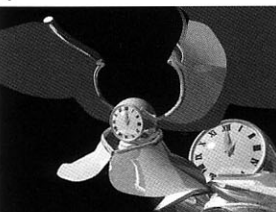
←ビジュアルデザイン科

1. 描写研究
(デザイン作業の基礎となる描写表現を研究)
2. イラストレーション
3. 表現技法・立体
(デザインの立体的発想演習と実習)
4. タイポグラフィ(基本書体のエレメント習得と応用)



デジタルデザイン科→

1. 2DCG実習
2. 2DCG演習
3. 想定デッサン
(イメージ力の強化)
4. 3DCG実習
(3DCGのしくみ、モデル作成)



学院だより

絵を描くことが生きがいである私が、画家以外にグラフィックデザイナーという職種のあることを知ったのは、高校一年の春だった。それからはグラフィックデザイナーを目指して、いろいろな情報を見たり聞いたりしながら、自分自身の目差す方向を確かめていた。その頃から見つけていたことが専門学校へ進学する時の学校を選ぶのに役立ったと思う。

他の専門学校も見学したが、山脇の体験入学の経験が私の進路志望校に決めさせた。それは、体験入学の時の先生に、あんなに熱心に教えられたのは初めてだった。美しい環境と、交通の便の良さもあった。そして市ヶ谷は私の住む町に比べたら空気はおいしくないが、オーバーではなく、2分も歩けば必要なものはすべて揃う。そんなところも私には魅力の一つである。

今、私は全力疾走中である。なぜかと云うと目標を持って、やりたいことに集中して真剣にやっているから。でも、課題に取組んでいる時、私の考えが足りなかったり、間違っていたり、余計なことを入れたりすると、先生に注意されたり怒られたりする。でも納得がいくまで説明され、教えてもらえることが嬉しい。今は何をやっても楽しくて、私の夢の広がるのを感じて、とても幸せである。

ちょっと、気後れな私は、山脇展ではクラスメイトと意見を出し合っていて、皆と一つの事をまとめることができた。まして人前に立つことあまり得意ではない私に、卒業進級制作展の合評会で発表する機会に挑戦し、私なりにクリアできたことで苦手意識もなくなり、コミュニケーションがとれるようになったことを実感した。

入学して一年、もう就職活動中の身であるが、山脇を見つけた時のように「ここだ!!」と思える会社を見つけた。私の希望する会社は、アナログの大切さを知って、デジタル、ITと騒がれている中、アナログで面白いことがいっぱいできるんだと云っている所、そんな会社に出会いたい。だから、手描きの面白さを大切にしながら、大きくなっていきたい。

ビジュアルデザイン科 2年 服部亜美

山協展のお知らせ

山協展 10月5日(土) 6日(日) 10時より

日頃の学習の成果を発表する場として、課題制作に留まらず、映像作成や空間の演出をしてみたいなど、年々学生の制作意欲は高まり、見応えのある展覧会になってきております。

1A科一年生は、ジュウリーショーを行う予定で早くから話し合いを進め、また1D科では学内の装飾を担当するだけでなく、内装に凝った飲食店を行う予定です。VD科ではオリジナル雑貨の販売を、DD科では映像製作やTシャツなどの販売を行う予定です。

クラスメイトの意見を学生だけでまとめて形にし、皆で山協展を盛り上げて行こうと遅くまで残ったり、休日に登校している姿は一生懸命で、見ていて微笑ましく、その熱意に感心もします。また各科の一、二年生が団結するだけでなく、科を超えて交流も深まり、学院全体が一つにまとまり、雰囲気もさらに良くなっています。前日まで準備に追われ、山協展当日も、もちろん忙しい学生達ですが、訪れた家族や友人を案内し、自分たちの作品を見てもらえる事はとても刺激になり嬉しいようです。



昨年度より、土、日曜日の開催となり、卒業生など会員の皆様がたくさんいらして下さいました。是非今年もお友達とお誘い合わせて遊びにいらして下さい。

学内会員 小島春花

千草会歓談室のご案内

「山協敏子回顧展」写真パネル展示

山協展当日 10時30分より 新館2F11番教室

この5月の回顧展の中から先生のお作品の何点かを選び、写真パネルにして展示いたします。回顧展をご覧頂けなかった方々にも、ぜひ、山協展と共に、ゆっくりご覧頂ければと思っております。

歓談室のご利用も、徐々にですが、お立ち寄り下さる方も増え、時には懐かしい先生方にお会いして、学生時代の思い出にお話の尽きない方もいらっしゃるようです。

昨年は、卒業生で、日本画を描いておられます日本美術院、院友の清水美智子さんに、世界の旅の中から、ネパール、パキスタンの作品を選んで、展示させて頂きました。日頃、なかなか目にする事も少ない国の風景、衣装等、楽しみながら見せて頂きました。在校生のカリキュラムにない日本画の展示に目を止められ、ご父兄の方々も熱心にご覧頂きました。千草会歓談室となっておりますが、どなたでもご覧いただけます。皆様お誘いあわせて、ぜひお出かけ下さいませ。



「世界の旅」より
清水美智子 (旧姓永瀬)
高等服飾科 昭和32年卒

千草会委員 青木恵美子(旧姓 田久保)

講師・職員移動報告

●退職された先生

インテリアデザイン科

樋口 誠先生

2DCAD

デジタルデザイン科

清滝有里子先生

企画演習(H13年9月退職)

ビジュアルデザイン科

吉田佳絵先生

助手 (H14年5月退職)

長い間ご指導ありがとうございました。

●就任された先生

インテリアデザイン科

宮城由紀子先生 プレゼンテーション

野口朝夫先生

インテリアデザイン 2

デジタルデザイン科

山口 武先生

企画演習(H13年10月就任)

ビジュアルデザイン科

鈴木真寿美先生

助手 (H14年4月就任)

千草会より

会報もより楽しいものにしていきたく思っております。これからも皆様のご協力よろしくお願い致します。

●千草会への住所変更や、お友達らの消息についての連絡がございましたら、従来通り、学院の窓口へご連絡下さい。

その際、「封筒の番号」もお願いいたします。

TEL 03・3264・4020

発行 山協美術専門学院同窓会

〒102・0074

東京都千代田区九段南4・8・21

電話 03・3264・4020